

01 地域カパワーアップ大作戦（令和7年度で4年目）

【事業目的・概要】

地域団体等と地域貢献したい事業者等をつなげることで地域課題の解決を図るとともにコミュニティを活性化させ、持続する地域づくりを支援するもので、**地域自体が活性化**することを目指す。

地域団体等と地域貢献したい事業者等をマッチングするワークショップを継続開催。ほか、参加は企業限定などのテーマ型ワークショップも開催し、共通する課題の解決に向け効率的なマッチングを目指す。ワークショップは区内の3まちづくりセンターで開催。

【事業実績・成果】

〈事例発表会〉

企業	地域	(見学)	計
40	21	8	61

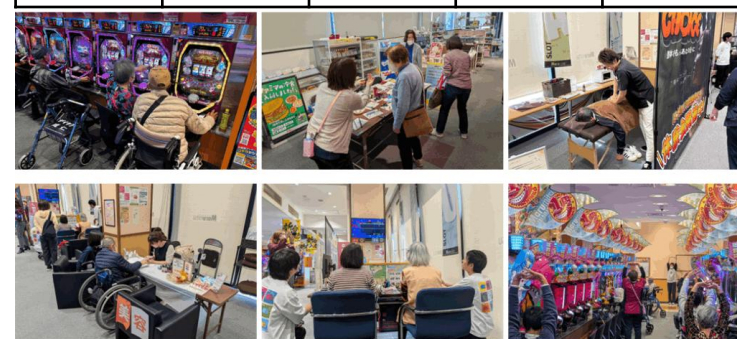


〈ワークショップ〉

回	計	地域	企業	場所
①	69	21	48	秋津まちセン
②	41	14	27	東部まちセン
③	38	0	38	託麻まちセン
④	41	13	28	東部まちセン
⑤	53	11	42	託麻まちセン
計	242	59	183	

〈連携事例〉

管轄別	託麻	東部	秋津	合計
	5	29	10	44



【課題と令和8年度取組】

各まちセン管内とも、認知度は高まってきており、地域と企業を結ぶ役割を常時一定以上果たしている。ただし、企業に比べ地域からの参加が増えづらいことから、地域が抱える問題の掘り起こしと、積極的な周知活動に努める。

R8年度は、企業から小中学校の先生方の参加を望まれていることから、先生方が参加しやすいのではと思われる**夏休み期間のワークショップ開催**を検討する。また、“見える化”しての他の団体や住民への波及効果、広く区民に評価されるインセンティブ化、継続的な活動の動機づけ、ノウハウの蓄積と展開、取組へのさらなる意識向上の5点をねらいとした連携取組事例の**表彰制度「HIGASHIKU MACHIZUKURI AWARD」**を新設する。

【事業目的・概要】

文化やスポーツが地域住民の生活に潤いを与え、人と人とのつながりを生み出す重要な役割を果たすことに鑑み、地域の文化・スポーツ行事（地域行事）における表彰や周知活動に関し区役所が積極的に支援する。地域行事の主催者からの申出を受け、東区長賞等を進呈する。

【事業実績・成果】



▲R7.7
健軍夏祭りのどじまん大会



▲R7.8
子どもイキイキ標語コンクール



▲R7.12
第32回汀女顕彰俳句大会

【課題と令和8年度取組】

令和8年度は「地域活性化支援事業」の中で、積極的に新たな地域行事の掘り起こしを進める。より広い世代、地域にPRしていけるよう東区ホームページやSNSでの発信を積極的に行う。

【事業目的・概要】

自主自立のまちづくりを推進するために地域団体が主体的に取り組む地域のコミュニティづくりを支援する。

【事業実績・成果】

地域が主体的に実施する地域コミュニティづくりの取組に補助金を交付した。

補助金交付事業：21件（自治会12件、自治協議会構成団体2件、その他の任意団体4件）

交付決定金額：2,477,000円



申請者：健軍商店街振興組合学生部

事業名：ちびっこリユース

事業内容：エコで楽しいリユース企画として、子どもたちが使わなくなったおもちゃや絵本、洋服などを健軍商店街に持参し、ほしいおもちゃ等と物々交換する取組を実施する。



申請者：西原校区1町内自治会

事業名：子どもからシニア世代まで幅広く楽しめる公民館活動「つながる！世代交流フィットネス」

事業内容：シニア世代にICTを身近に感じてもらうとともに、公民館が集いの場として利用しやすくなるよう、eスポーツやスマホ教室を実施する。（写真は料理教室）

【課題と令和8年度取組】

多くの団体に活用してもらうため、**SNS等を活用し地域活動を行っている若い世代に向けて**本事業の周知を行う。

【事業目的・概要】

地域団体等におけるICT活用を促進し、構成員間の協議・連絡・情報共有の円滑化・効率化を図ることで、新たな人材の発掘や自治会等役員の負担軽減につなげることを目的とする。

【事業実績・成果】

「ICTなんでも相談室」を開催

東区在住または東区に通勤・通学をしている、スマートフォン初心者の方を対象に、スマートフォンに関するお困りごとをマンツーマンで解決するICTなんでも相談室を開催した。

電話・メール・マップなどの使い方、QRコードの読み込み方法など、13名が参加した。

【課題と令和8年度取組】

役員間のやりとりにLINEグループを活用している自治会は多く、住民も参加するオープンチャットや自治会HPを運営している自治会もある。一方で、地域間には差があり、ICTを利用する意識が低い地域では活用が広がらないことが課題となっている。そのため、ICT化に積極的な地域団体と連携しモデルケースとして他団体に紹介したり、LINEを使った回覧板、Googleアンケートを活用したイベント参加者の集計など、より具体的な地域活動へのICT活用方法を提案し、導入を促進する。

地域が自ら情報を発信できる技術を身につけることで、地域の情報発信力向上にもつなげる。

05 あさひばリビング（地域交流スペース）活用支援事業-5- （令和7年度で7年目）

【事業目的・概要】

高齢者から若い世代まで多様な地域住民が利用しているというまちづくりセンターの特性とロビーのスペースを有効活用することで、多世代間の新たなコミュニティの派生を促す。



【事業実績・成果】

・あさひばリビング（地域交流スペース）で、地域にお住いの特技をお持ちの名人さんが「市民先生」となり、様々なテーマで10回のあさひばリビングワークショップを実施。

・あさひばだよりの発行
毎月15日発行（約1,300部）
館内配布及びあさひば（秋津、桜木、桜木東、若葉）校区での回覧、地域公民館、小中学校へ配布。

開催日	内容	市民先生	参加者数
4月25日	文書作成入門講座	秋津校区住民	7名
5月15日	梅仕事ワークショップ	HANDMADE発酵	14名
5月29日	争族にならないための相続～空き家を相続したら！？～	若葉校区民生委員（若葉校区住民）	7名
6月26日	新茶の美味しい淹れ方	おちゃいち山陽堂	10名
8月3日	色と遊ぶ 心がほどけるアート体験	miyuki art labo	19名
8月15日	こどもたちへのおかねのおはなし	肥後銀行	6名
8月23日	親子で楽しむ塗り絵時間	シホサンフラワー	13名
9月28日	熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）	健軍東小学校教諭（秋津校区住民）	17名
11月30日	世界の扉を開けてみよう	スリーライオンズインターナショナルスクール	12名
12月19日	ミニ門松づくり	桜木東校区住民 他	15名

【課題と令和8年度取組】

参加者同士のコミュニティの派生を促すため、同じ参加者によるワークショップを複数回開催するなど連続する企画を展開する。また、地域カパワーアップ大作戦の参加企業等と連携し、企業が持っている専門性や資源を提供してもらい、住民と企業との新たな交流を創出する。



【事業目的・概要】

東区内の各コミュニティごとの災害への意識・対応力を上げることで、区全体の災害対応力向上と、熊本地震を風化させないまちづくりを目指すもの。町内・校区・各種団体などをターゲットに、それぞれのコミュニティで取り組む防災活動へ、2種の区役所タスクとして地域の防災力アップを応援し、災害へ備えていただく。

タスク①「『そなえる』防災講座」では、ゲーム体験、グッズ・マップ作成、動画の上映・貸出、組織づくりのお手伝い、防災士や気象予報士の講師派遣など、多彩なメニューを用意。応募ニーズに合わせ、**様々な災害への「そなえ」の形づくり**を支援。

タスク②「地区防災計画策定支援」では、**住民同士で地区(校区)の課題・対策**を考え、活動体制・校区ルール・今後の取組方針などを盛り込む「地区防災計画」の策定を支援。ワークショップ、専門家のアドバイス・分析、計画書・マップ作成を提供。

【事業実績・成果】

【タスク1『そなえる』防災講座】（件数/参加延人数）

- | | |
|----------------|---------|
| ① 防災ポシットづくり | 3件/124名 |
| ② 救急救命講習 | 1件/20名 |
| ③ 地域版ハザードマップ作成 | 2件/30名 |
| ④ その他防災講座 | 8件/324名 |

【タスク2地区防災計画策定支援

託麻南校区で着手。

- | | | |
|-----|--------------------|-----|
| 9月 | キックオフ会議・第1回ワークショップ | 44名 |
| 10月 | 第2回ワークショップ | 57名 |
| 2月 | 第3回ワークショップ | 39名 |



【課題と令和8年度取組】

- 東区まちづくり懇話会委員意見「**子どもたちが防災に触れられる**機会づくり」、「**楽しい、参加したい**という防災イベントの開催」、「防災に関する周知の強化」、「地域での**日頃からの居場所やコミュニティづくり**」等を踏まえ、高齢化や新たな担い手確保ができないなどの課題を抱える地域防災組織等への取組展開を検討する。
- 作成した避難所運営支援動画等を活用してもらうなど、校区・町内での防災訓練・研修等を積極的に支援していく。
- **学生を含む若い世代や子育て世代**へ関心をもってもらえるような周知啓発や、イベント開催などの展開も検討していく。

07 あさひばみんなの防災フェスタ開催事業 (令和7年度で9年目)

【事業目的・概要】

地域住民等に防災に関する知識を楽しみながら学んでもらい、地域の防災力のさらなる向上を目指す。

【事業実績・成果】

①開催実績

開催日：令和7年（2025年）8月10日（日）

参加者数：約300名

②開催内容

体験型ワークショップのブースを設置。

- ◆防災講話「誰も取り残さないために」、「こどもを守るちから、じぶんを守るちから」
- ◆避難生活体験
- ◆防災ポシエットづくり
- ◆消火器VR体験
- ◆熊本地震の記憶を未来へ紡ぐ写真展、未来へつなげるメッセージ



※秋津校区のこども食堂「あきつかフェ」やeスポーツ体験会も同日開催。



【課題と令和8年度取組】

激甚化するあらゆる災害に対応できるよう、新たな要素を追加しながら継続して実施する。また、災害を自分事として捉えてもらい、こどもから大人まで多くの方が楽しく参加できるようなイベントとするため、多様な体験型のブースを設置するなど内容の充実を図る。

【事業目的・概要】

小学生～高校生をはじめ区民へ啓発活動を実施し、交通安全・防犯意識が向上し、安全安心なまちづくりの実現を目指す。

【事業実績・成果】

(1) 高校生との協働事業

東区内の4高等学校と協働で、自転車月間（5月）の登校時間に啓発グッズを配布。

(2) 区民啓発事業

- ・東区内の小学校新1年生へ交通安全啓発グッズの配布
- ・広報車での交通安全の呼びかけや防犯パトロールを実施
- ・警察・交通指導員・防犯協会等と連携した啓発活動の実施

小学校新1年生へ交通安全啓発グッズ▶



▲高校生との共同事業

【課題と令和8年度取組】

より多くの区民に交通安全・防犯意識の向上を図るため、ホームページやSNSを活用した啓発活動を推進する。その一環として、高校生と協働で啓発動画を作成し、学生の目に触れやすい**YouTube広告**を活用した効果的な啓発活動を実施する。

【事業目的・概要】

子育て世帯が、安全・安心して子育てができるまちづくりを推進するため、区や校区単位の子育て支援ネットワーク活動や地域の主体的な子育て支援活動への支援を行う。

【事業実績・成果】

事業実績	成果
校区子育て支援ネットワーク会議における講師派遣	3校区：東町校区：防災(28人)、託麻北校区：子育てネットとは(12人)、桜木東校区：メディア(21人)
連絡会・研修会	連絡会：3回(61人) 研修会：1回(38人) 事例発表・グループワーク
「あつまっふる(東区子育て応援マップ)」アンケート	回答数(154人) 「満足度」5段階評価の4, 5の回答73.4%【令和8年1月末時点】
思春期健康教育	6回：思春期(216人)、乳児期(109人)、学童(2人)、保護者(73人)、地域スタッフ(121人) 【令和7年12月末時点】
防災教育	37回(668人) 【令和7年12月末時点】



【課題と令和8年度取組】

- ・校区により子育てネットワーク活動の認識や展開に差があるため、引き続き講師派遣を行うことで校区子育て支援ネットワーク活動の活性化を図る。

- ・あつまっふるのアンケート結果をもとに、アクセスしやすい子育て支援に関する**情報発信の内容と方法を再検討する。**

10 地域ささえあい推進事業 (継続 令和8年度(2026年度)で13年目)

【事業目的】「東区ささえあいプラン(東区地域包括ケアシステム推進方針)」の推進に向け、認知症への理解促進と区民によるささえあいの強化、自立意識の向上と医療・介護連携の推進を図る。

【事業実績・成果】

- ▶ 認知症の人の思いを正しく知るとともに、認知症に関する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支え合う意識の醸成に繋がった。
- ▶ 研修会やイベントを開催し、介護予防の意識向上や医療と介護が連携できる体制づくりに取り組んだ。



認知症VR体験(ジュニア講座)

開催日	内容	参加者数等
6月21日	くまもと元気くらぶ体操体験イベント	21名
7~11月	認知症サポートリーダー(認とも)養成講座	11名養成
8月23日	認知症VR体験(ジュニア講座)	こども13名 保護者14名
9月11日	訪問看護に関する研修会(専門職向け)	84名
9月	「認知症月間」公民館・図書館等での啓発展示	
11月15日	認知症啓発映画「オレンジ・ランプ」上映会	176名参加
11月17日	「人生会議セミナー」(専門職向け)	45名
11月21日	「健康づくりを足もとから」研修会	30名
3月完成予定	介護(転倒)予防体操の動画制作(DVD)	200枚作成



くまもと元気くらぶ体操体験イベント



認知症サポートリーダー(認とも)養成講座終了式

【課題と令和8年度の取組】

- ▶ 認知症の人とその家族への関わりを深めるため、地域、企業、学校など関係機関と連携し、**特に若い世代を対象**とした取組を実施する。
- ▶ 転倒骨折予防の取組として、**介護(転倒)予防体操動画の活用促進や骨ウェーブ(骨の強さ)測定会を開催**する。
- ▶ 在宅医療・介護に関する理解促進や、**人生会議の普及に関する取組を実施**する。

11 東区健康まちづくり推進員支援事業 (令和7年度で9年目)

【事業目的・概要】

健康を幅広く捉える視点を持ち、地域組織や関係機関と協働して東区の健康まちづくり活動を推進する人材（健康まちづくり推進員）を育成し、活動を支援する。

※健康まちづくり市民との協働による健康づくりをテーマとしたまちづくり

【事業実績・成果】

- 健康まちづくり推進員養成講座（全6回）を開催。**第8期生推進員10名**が東区健康まちづくり推進員協議会に加入。
- 東区健康まちづくり推進員協議会と県立大学との協働により、**かるた部会（8回）、東区民を対象にアンケート・インタビュー（計296名）**を実施。**東区の特徴や健康課題を盛り込んだ啓発媒体「東区健康増進かるた」**を作成。
- 地域活動や地域力パワーアップ大作戦（事例発表会にて活動報告）、SNS等を活用し、年間を通して推進員の活動や養成講座を周知。



【課題と令和8年度取組】

健康まちづくりを推進するためには、人材確保及び育成が重要であるため、区民向けに健康まちづくり推進員養成講座を開催する。本事業の取組を今後も継続し、推進員の活動の広がりを通して、区の健康まちづくり活動を推進していく。手法の一つとして、「東区健康増進かるた」を周知し、地域での啓発活動に取り入れつつ、絵札を募集しブラッシュアップしていく。

12 Instagramによる地域活性化事業（令和7年度で2年目）

【事業目的・概要】

東区公式Instagramを活用して、10～30代半ばの若い世代に向けて東区の魅力（人・食・風景・文化資源）を写真やショート動画で発信し、東区への愛着や郷土愛を育むとともに、まちづくりへの関心を高める。

【事業実績・成果】

アカウントのフォロワー数は合計2,735人となった。
 令和7年4月以降に46投稿行い、閲覧数の平均は7,932回。
 投稿の中でも特に反響の大きかったコンテンツは最大**16万回の再生数**
 （1871件の「いいね」）を記録し、若い世代を中心に高い閲覧率が見られた。

【課題と令和8年度取組】

東区公式Instagramのフォロワー数増加に継続して取り組む
 （将来の目標値7,000人）。
 魅力的な投稿の継続はフォロワーの定着だけでなく、地域の方々の誇りへつながり、活動意欲向上につながっているため、クオリティを維持することを重視する。
地域の魅力を15秒動画で発信する「東区リール祭り（仮称）」の開催。



13 美化活動啓発事業（ごみステーション管理啓発） （令和7年度で4年目）

【事業目的】

地域が抱えるごみ問題について次世代を担う地域の児童が考える機会を設けるとともに、参加した児童の想いを広く区民に周知し、その解消に向けた取組の推進を図る。

【事業実績・成果】

- 第4回東区「まち☆キラ」コンクール（ごみステーション美化のためのポスターコンクール）を実施し、東区内の17の小学校の児童から210点（1年生35名、2年生27名、3年生38名、4年生49名、5年生42名、6年生19名）の応募があった。ごみやリサイクルに関することを学ぶ4・5年生からの応募が全体の約5割を占めた。
- 選考の結果、入賞作品を15点選定（最優秀賞1点、熊本市現代美術館賞1点、東区長賞1点、優秀賞12点）し、令和7年11月9日、東区役所にて表彰式を実施した。
- 最優秀賞受賞作品をベースとした「ごみステーション美化啓発ポスター」を制作し、掲示を希望する自治会に配布。また、令和7年11月下旬から12月初旬にかけて、東区役所及び東区管内のまちづくりセンターにおいて、入賞作品の巡回展示を実施した。（秋津まちづくりセンターは工事のため未実施）

【課題と令和8年度取組】

- より多くの児童にごみ問題に関心を持ってもらい、本コンクールに参加してもらえるよう、取り組みやすい題材を設定するとともに、丁寧な周知活動を実施する。
- 併せて、新たな取組についても検討し、より良い事業の在り方を研究する。



表彰式（東区役所3階ふれあいホール）



ごみステーション美化啓発ポスター



入賞作品の巡回展示（東区役所1階ロビー）

14 若者まちづくりリーダーズ事業（令和7年度で2年目）¹⁴⁻

【事業目的・概要】

高校生が、将来、地域を担う人材となるように、高校生自ら地域課題を学び、課題解決のために企画から実践までを行うことで、まちづくりの成功体験を得てもらう。

【事業実績・成果】

【①ワークショップ】

- ・ 健軍商店街をフィールドとして活動
- ・ 地域課題を見つけるために、関係者からの聞き取りや、アンケートを行い、
- ・ **「どうしたら高校生が商店街に来るか」**を課題解決テーマとして設定。

【②企画事業】

- ・ R7.11月の健軍夜市において、「推し活ドリンク」、「無料焼きそば」「高校生対象アンケート調査」を実施。

【課題と令和8年度取組】

事業への参加者が前年に比べ減ったため、高校生が参加しやすいように令和8年度は活動期間を短くし、2クールに分けて実施予定。また、地域や学校などと連携し、**新たな地域で事業を実施する予定。**

【③高校生から商店街へ提言】

- ・ 高校生へ情報を届ける方法は、口コミが有効。運営に高校生を入れる。
- ・ 「推し活」を使って高校生を呼び込む。
- ・ ポスターに今どきの言葉を活用する。
- ・ R8.3月健軍会議にて、プレゼン発表。

【④高校生の感想】

- ・ 地域活性化を机上で学んだことはあったが、実際にやってみて難しさを痛感した。
- ・ 地域活性化のために多くの大人が頑張っていて驚いた。
- ・ 学んだことを今後の大学生活に活かしていきたい。



15 まちづくりリーダーのたね授業（令和7年度で1年目）

【事業目的・概要】

こどもが地域の大人と一緒に地域課題の解決に取り組み、地域とのつながりを深めることで、地域愛を育むとともに、主体的な地域づくりへの参画（将来のまちづくりリーダー等）へと繋げる。

【事業実績・成果】

授業数：9月6時限、11月4時限、1月6時限、2月1時限 ※9・11・2月：3クラス合同

参加者：託麻北小学校6年生95人（3クラス）

地域の方13名（託麻北校区社会福祉協議会、自治会、農業関係者等）

- ・地域食堂（託麻北校区）の参加者100人を目指して、こどもたちがBGMや飾り付け、チラシ、マスコットキャラクター、イベント企画、レシピを作成し、12月からの地域食堂で活用してもらうとともに、授業参観でこどもたちが取組発表やレシピの贈呈を行った。
- ・今までは地域の方のおかげで農業体験等の活動をさせてもらっているという受け身の姿勢だったが、今度は自分たちが地域の役に立ちたいという意識に変わり、**こどもたちが自分の力で地域に関わる一歩を踏み出すきっかけをつくること**ができた。地域ゲストや先生からも同様の声をいただいた。
- ・地域食堂に毎回来る子や保護者を連れて来たり、さらに地域食堂の参加者も増えつつある。

【課題と令和8年度の取組】

こどもたちが取り組みやすい地域課題のテーマを見つけることが必要。

今年度は託麻北校区でモデル的に取組を行い、引き続き、同校区で継続していくとともに、令和8年度以降は順次対象校区を広げていきたいと考えている。



16 まちづくり懇話会等開催経費 (継続_令和7年度(2025年度)で13年目)

【事業目的・概要】

区民や地域で活躍する方々と意見交換を行い、その意見をまちづくり施策や事業改善に反映することで、東区の特徴を生かした魅力ある地域づくりを推進する。

【事業実績・成果】

★東区まちづくり懇話会



令和7年度は**3回**実施（うち1回は書面）。委員への令和7年度事業の説明や実績報告を行うとともに、**委員の意見を踏まえた令和8年度事業の企画・立案**を行った。今年度、委員の数を減員したことにより、各委員の発言の機会が増え、有益な意見を多数聴取した。

★東区まちづくりカフェ



令和7年度は**5回**実施。東区長が、食生活改善推進協議会役員や東部児童館利用の保護者、民間企業の職員、校区自治協議会長等との意見交換を行った。**区民のニーズ※を把握**し、事業の企画・立案に生かすとともに、関係部署に**課題を共有**し、その解消に向けた検討を依頼した。

※水害時の冠水対策、公式Instagramの告示情報、にぎわい創出など

【課題と令和8年度取組】

区民と区役所の協働による暮らしやすいまちづくりを更に推進するため、令和8年度も東区まちづくり懇話会と東区まちづくりカフェの両輪で意見交換を実施する。特に、東区まちづくりカフェについては、**新たな分野の参加者を掘り起こし、より多様な意見を区政へ反映**できるよう取り組む。

17 東区地域活性化支援事業 (継続_令和7年度(2025年度)で9年目)

【事業目的・概要】

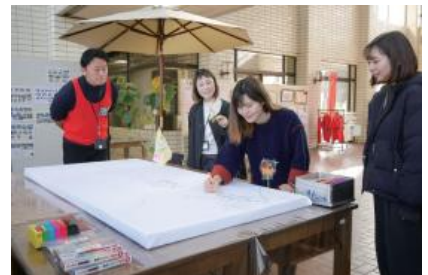
時勢等により発生した地域の課題に対して迅速に、また臨機応変に対応し、地域の活性化に寄与する事業を立案する。

【事業実績・成果】

★文化的処方「商店街の美術室」

少子高齢化や地域コミュニティの希薄化が進行し、「望まない孤独」や「社会的孤立」が顕在化していることを踏まえ、**「薬」を処方するように「アートや文化活動」を通じて心や社会とのつながりを提供する(文化的処方)**ことで、住民が「望まない孤独」や「社会的孤立」を乗り越え、またはそれを予防し、健康で幸福に暮らす力を育むことを目的とし、東京藝術大学の古川実季氏をアーティストとして迎え、**高齢者や子育て世帯等向けワークショップを健軍商店街の空き店舗等で実施**した。令和8年度も引き続き、住民がアートを「見る」だけでなく「体験する」機会を提供し、心のケアや社会参加の促進、地域の活性化を図っていく。

R7年度参加者アンケート結果(延べ人数)	誰かにつながっていると感じた	誰かに受け入れられていると感じた	人と自分は同じでないと感じた	誰かと対話しているように感じた	自分と対話しているように感じた	誰かに認められたと感じた
	18名	10名	9名	9名	6名	5名



アーティスト 古川 実季氏(熊本市出身) R7.10.15 ワークショップ(声を見てみる、聞いてみる)

R8.2.13 ワークショップ(きおくのはたをたどる)

★その他の東区地域活性化支援事業の実績として、【熊本地震から10年】東区ドキュメンタリー「揺れの記憶」に取り組んだ。

【課題と令和8年度取組】

引き続き地域において突発的に発生した課題に対し、迅速かつ柔軟に対応する事業等を立案し、地域の活性化を図る。また、地域の文化スポーツ行事について、区長賞を授与する事業を実施する。